



片桐衣理

衣理クリニック表参道 院長

医療で美容を極めようという片桐医師は、業界の中で一種の異端児だった。しかし今、彼女は一人の医者を超えてグローバルに活動する女性へと見事に変身した。その変化を支えてきたのは、彼女の「自分の本心に耳を傾けること」という強い意志だった。

女性らしさを大切にする片桐さんは、現代に生きる女性の新しい魅力を示してくれる存在。自分の心に忠実に生きる彼女のライフスタイルから、健やかなる美しさの秘訣と美意識を身につけたい。

Eri Katagiri

片桐 衣理

帝京大学医学部卒業。東邦大学内科医局勤務。都内クリニック院長を経て01年、墨田区菊川に衣理クリニックを開業。04年、港区北青山にトータルアンチエイジングセンター「衣理クリニック表参道」を設立。美肌フリークとしてあらゆるコスメ、施術、健康法、若返りを自ら実践。実践にもとづく的確な診療には定評がある。

毎日を積み重ねていく 大人の女性の美意識

2004年10月、東京・表参道にトータルアンチエイジングクリニック「衣理クリニック表参道」を開業。医療美容をコンセプトに皮膚科・内科医師として活躍する片桐さんは、美容やアンチエイジングに悩む多くの女性達から信頼が厚い。

多くの女性誌やイベントでコメンテーターとして活躍する彼女は、知性と美しさを兼ね備えた理想の女性像として美望の眼差しを向けられている。

「そんなこと、ないですよ。でもね、必ず、私はどんなものでも、こうなりたい。って願ってれば、思いは実現できるんじゃないかなって思うんです。」

そう穏やかな表情でゆっくりと話す片桐さんから、信念の強さと内面の奥深さが垣間見える。

「たとえ今の自分が予定通りではなくても、強く願ってれば、思いは形になって少しずつ変化していったとしても、必ず実現するって思うんです。そのために、いつも、前進すること。」

「あきらめないこと」が大事です。」

美容クリニックを開業して3年。開業前、美容とアンチエイジングの専門家として究めるべく医師（内科）の仕事に就いたにも関わらず、美容の道に進むにはまわりの反対が多く、彼女自身の中でも大きな迷いと葛藤が生じたという。

「私が美容の道に進む決心がついた

のは、31歳の時。自分の中で、このままじゃいけないって思ったんです。5年後、10年後、自分は本当はどうしたいのかと心に聞いて予定を立てました。失敗はいつも、たくさんあります。でも、必ずその先があるから。山があつて谷があつて、道は決して平坦ではないけれど、失敗してもあきらめない。いつでもリセットはでき、と思っています。いつからでもスタートできる。だから、常にあきらめないことが大事です。その後に続くものが必ずあるから。」

片桐式、女性がいとも美しくいる秘訣とは。

「今の自分に満足しきらずに、いつも前進、進歩してほしいと思います。現状に浸らず、毎日何かプラスアルファなものを。それは仕事でもそうだし、スキンケアやメイクでもファッションでも何でもいえること。今日はこんなことが良かった。あんなことが勉強になった。というものを発見して、積み重ねていくことができたらいなと思います。男性ばかりの組織社会の中でも、女性の役割は多くあると思います。女性はもつと気持ちをラクに、気を抜いて、肩ひじを張らずに自然体でいるように。女性は女性のいいところがたくさんあるんです。だから無理してがんばりすぎたりせずに、その役割を認めて、伸ばしていけばいい。私は、女性として同性の立場にたった仕事のスタンスを心がけています。女性の味方になって、ずっとサポートしていけるパートナードクターとして、健康のかかりつけ」を目指します。」

迷わない、立ち止まらない。
失敗をステップにいつも前進あるのみ



フィオレンティーナは素敵な女性たちを応援します

片桐式、 女性がいつも 美しくいる秘訣

美しく心地良い環境は 女性にとって、大切なものです

バスタイムは朝と夜ともに
気分をリフレッシュ

朝と夜、バスタイムにはたっぷりと時間をかけています。朝、起き抜けの入浴は瞑想に近い状態で入ります。湯船に浸かりながら今日の一日のスケジュールを頭にめぐらせて、行動を組み立てていきます。目を覚ますのは最後にシャワーを浴びる時。入浴剤は気分にあわせていろいろなものを使うけれど、いちばんのお気に入りには「シャネルN°5」かな。

ほど良い体力づくりと
ウェイトコントロール

健康的な身体づくりのために週3回、パーソナルトレーニングジム「トータル・ワークアウト」に通っています。出勤前の朝の1時間、ダンベ

ルなどを利用してお腹や脇など部位に合わせた様々なトレーニングを組み合わせて行うのですが、トレーナーのアドバイスで無理なくウェイトを維持、身体をサポートしていくことができるのでとてもいいですね。

かかせない「プロテイン」と
「ナチュラルハウス」

午前11時から診療が始まり、忙しい時は夜の20時まで休憩が取れないことも多くあります。そんなときに欠かせないのは「プロテイン」ドリンクです。診療の合間にさっと摂取します。一日に二回くらい飲むと疲労感がかなり取れますね。「ナチュラルハウス」のお弁当は玄米やひじき、和え物など栄養バランスの良いものが揃えられているので気に入っています。

心身を美しくするための 環境づくりは念入りに

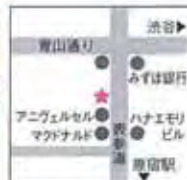
衣理クリニックは女性を美しくする場所。女性の五感を研ぎ澄ませ、というところがおおげさかもしれませんが、そのための美しい環境や空間づくりは徹底しています。各部屋の空調などもこまめに温度調節をしないと暑すぎたり寒すぎたり……女性の身体は敏感に感じます。また、たくさんの方が出入りする院内にはいろいろなにおいがつきます。換気に注意して、香りには十分な配慮をしています。女性にとって、美しく心地よい環境はとても大切なものです。職場もそうですが、プライベートでも自宅の環境には気を配っています。温度や湿度、空調に気を付けて、眠るときは明かりや香り、ファブリックにいたるまで、ゆったりとリラックスできる環境を整えるようにしています。



「赤」は仕事運のラッキーカラー。片桐さんがいつも持ち歩いているデジカメは記憶管理の必需品。仕事でもプライベートでもインスピレーションに反応したものを撮影してストックしておく。赤い携帯ストラップは患者さんからの贈り物。



「イースペシャル」衣理コスメの完成形。左からモイスチャージェル120mg 7000円、クレンジングジェル200ml 5000円、モイスチャーローション150ml 7000円、手前左アクティブクリームAO 30g 2万円、スキンシュティカルズ セラム20 1万5000円、フィットコレクティブジェル7500円。



■衣理クリニック表参道
〒107-0061
東京都港区北青山3-5-30 入来ビル4F
☎ 03・5786・0077
<http://eri-clinic.com/>

「最近、物忘れがひどくなってしまってます(笑)」という片桐さん。大切な情報は書き留めるように習慣づけてから手帳は必至アイテム。お揃いの手帳と名刺入れはエルメス。ピンクカラーが鮮やか。

